

はじめに

本報告書は、東北大学グローバル COE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」の東京大学社会科学研究所連携拠点が刊行する研究シリーズの第 2 号である。

性別や年齢、出身地、障がいの種類・有無や国籍などにかかわらず、だれもが人格と個性を尊重され、フルに参加できる社会、そのような社会を実現する条件は何か。GCOE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」(拠点リーダー: 辻村みよ子・東北大学大学院法学研究科教授) は、そうしたグローバルな課題に挑戦する高度な専門家を養成していく。また、研究の成果を広く社会に還元し、貧困や格差による社会的排除、人口高齢化、根強いジェンダー不平等といった社会問題に対して、有効な公共政策の策定に寄与する。

「社会的文化的性別」と訳されるジェンダーは、文化、エスニシティ、社会階級、年齢、障害の有無などによって、多様な形態をとることが知られており、ジェンダー概念には人間の多様性への洞察が組み込まれている。本 GCOE プログラムが男女共同参画と多文化共生をテーマとするゆえんである。

このような GCOE プログラムのコンセプトにふさわしく、社会科学研究所連携拠点の研究シリーズ No. 2 では、2009 年 1 月 20 日に、本連携拠点が、東京大学ジェンダーコロキウムおよび立命館大学生存学センター GCOE「生存学」と共催した公開シンポジウム「『ニーズ中心の福祉社会へ: 当事者主権の次世代福祉戦略』(上野千鶴子・中西正司編、2008 年) を読み解く」を収録する。

上野千鶴子と中西正司が、2003 年に共著『当事者主権』(岩波新書) を世に問うてから 5 年。この間の反響、応答、進化をふまえて上野と中西は、各分野の一線の論者を集めて研究会を組織し、集中的な切磋琢磨により満を持して 2008 年に『ニーズ中心の福祉社会へ: 当事者主権の次世代福祉戦略』(医学書院) を送り出した。当事者主権の次世代戦略、社会改革のためのデザイン・ビジョン・アクションのシナリオである。シンポには著者のほぼ全員が参加し、修士課程の大学院生を含む若手研究者による果敢な論評を受けた。会場には、各種の障害当事者、ポリシーメーカー、老若男女の研究者が参加し、東京大学で開催される他の催事とは異質な、多文化共生の時空間が創り出された。若手研究者の論評、著者によるリプライ、総合ディスカッションを通じて、新しい福祉社会への課題が掘り下げられ、展望が開かれたと考える。

連携拠点リーダー 大沢真理

公開シンポジウム

『ニーズ中心の福祉社会へ：当事者主権の次世代福祉戦略』

(上野千鶴子・中西正司編、2008年)を読み解く

2009年1月20日(火) 17:00~20:06

東京大学弥生講堂一条ホール

共催

東京大学ジェンダーコロキウム

東北大学GCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」東大社研連携拠点

立命館大学生存学センターGCOE「生存学」

目次

第1部 各章への論評	1
第2部 著者からのリプライ	29
第3部 ディスカッションとまとめ	41

上野千鶴子・中西正司編『ニーズ中心の福祉社会へ：当事者主権の次世代福祉戦略』
 (医学書院、2008年)の章別構成と著者、および各章の評者

章別構成 (著者)	評者
理念	
第1章 当事者とは誰か? (上野千鶴子) ニーズ中心の福祉社会のために	熱田敬子
ニーズとサービス	
第2章 ケアサービスのシステムと当事者主権 (笹谷春美)	早川ゆり
第3章 高齢者のニーズ生成のプロセス (齋藤暁子) 介護保険サービスの利用者の語りから	杵渕里果
第4章 ニーズはなぜ潜在化するのか (春日キスヨ) 高齢者虐待問題と増大する「息子」加害者	山秋真
事業	
第5章 福祉多元社会における協セクターの役割 (上野千鶴子)	開沼博
第6章 福祉事業における非営利・共同セクターの実践 (池田徹) 生活クラブ生協千葉の事例から	永野眞理
制度	
第7章 三つの福祉政府体系と当事者主権 (大沢真理)	米澤旦
第8章 これからの社会保障政策と障害福祉 (広井良典) 高齢者ケアとの統合を含む社会サービスの可能性を視野に	天谷力蔵
アクション	
第9章 楽観してよいはずだ (立岩真也)	河村賢
第10章 当事者主権の福祉戦略 (中西正司) ユーザーユニオンの結成へ	熊坂礼子

評者の紹介 (登壇順)

熱田敬子 (あつた・けいこ)

第1章 「当事者とは誰か？」(上野千鶴子) 担当

早稲田大学大学院文学研究科社会学コース博士課程。専攻は社会学・ジェンダー論。研究テーマは、日本における人工妊娠中絶の体験の語られ方。論文に『『当事者性』の再構築——定義をめぐるポリティクス——』など。

早川ゆり (はやかわ・ゆり)

第2章 「ケアサービスのシステムと当事者主権」(笹谷春美) 担当

立教大学大学院社会学研究科 博士課程前期課程

杵渕里果 (きねふち・りか)

第3章 「高齢者のニーズ生成のプロセス」(齋藤暁子) 担当

保険のアルバイトをしながら上野ゼミに参加。自称 M2 (マスター二年でなくモグリの二年目)。演劇批評サイト・ワンダーランド、季刊誌『シアタ・アーツ』などに寄稿あり。

山秋真 (やまあき・しん)

第4章 「ニーズはなぜ潜在化するのか」(春日キスヨ) 担当

ノンフィクションライター。著書に『ためされた地方自治：原発の代理戦争にゆれた能登半島・珠洲市民の13年』桂書房(2007)、実績に「シングルパパもプレ・シングルママもほしい児童扶養手当」『週刊金曜日』No. 750:28-30(2009)。

開沼博 (かいぬま・ひろし)

第5章 「福祉多元社会における協セクターの役割」(上野千鶴子) 担当

東京大学大学院学際情報学府修士課程在籍。

永野眞理 (ながの・まり)

第6章 「福祉事業における非営利・協同セクターの実践」(池田徹) 担当

出産退職・専業主婦の後、パート勤務の傍ら上野ゼミにモグリ続ける番外弟子。

米澤旦 (よねざわ・あきら)

第7章 「三つの福祉政府体系と当事者主権」(大沢眞理) 担当

東京大学人文社会系研究科社会学専門分野博士課程。

主な論文に「労働統合型社会的企業における資源混合——共同連を事例として」『ソシオロ

ゴス』33号(2009・近刊)。

天谷力蔵(あまや・りきぞう)

第8章 「これからの社会保障政策と障害福祉」(広井良典)担当
東京大学大学院・修士課程・人文社会系研究科(社会学)

河村賢(かわむら・けん)

第9章 「楽観してよいはずだ」(立岩真也)担当
東京大学大学院人文社会系研究科修士課程

熊坂礼子(くまさか・れいこ)

第10章 「当事者主権の福祉戦略」(中西正司)担当

主婦(宮城県仙台市在住、元高校教員)。2007年から上野千鶴子先生の指導を受け、主婦の当事者研究をしている。(研究レポート:「私の不満と不安の研究」(2008)上野ゼミで書いたものが一応ありますが、外部に発表したものではありません)

当日参加の著者紹介（登壇順）

*印は編者

上野千鶴子（うえの・ちづこ）*

第1章「当事者とは誰か？ ニーズ中心の福祉社会のために」および第5章「福祉多元社会における協セクターの役割」を執筆。

東京大学大学院人文社会系研究科教授（社会学）。著書に『家父長制と資本制』『近代家族の成立と終焉』『当事者主権』（中西との共著、以上岩波書店）、『ナショナリズムとジェンダー』（青土社）、『老いる準備』（学陽書房）、『おひとりさまの老後』（法研）など。

笹谷春美（ささに・はるみ）

第2章「ケアサービスのシステムと当事者主権」を執筆。

北海道教育大学教育学部札幌校教授。著書に『変動期の社会学』中央法規出版、『階級・ジェンダー・エスニシティ』共著・中央法規出版など。

齋藤暁子（さいとう・あきこ）

第3章「高齢者のニーズ生成のプロセス」を執筆。

恩賜財団母子愛育会リサーチレジデント。著書（主な論文）に、共著『ケアとサポートの社会学』法政大学出版局、論文「高齢者・家族・サービス提供者の相互関係分析」『社会政策研究』（7）。

春日キスヨ（かすが・きすよ）

第4章「ニーズはなぜ潜在化するのか」を執筆。

松山大学人文学部社会学科教授。著書に『父子家庭を生きる』勁草書房、『介護とジェンダー』家族社、『介護問題の社会学』岩波書店など。

池田徹（いけだ・とおる）

第6章「福祉事業における非営利・協同セクターの実践」を執筆。

社会福祉法人生活クラブ理事長。協著書に『プレーメンの挑戦』ぎょうせい、『生協の本』コープ出版、『個室・ユニットケア読本実践編』ミネルヴァ書房など。

大沢真理（おおさわ・まり）

第7章「三つの福祉政府体系と当事者主権」を執筆。

東京大学社会科学研究所教授。編著書に『アジア諸国の福祉戦略』ミネルヴァ書房、『現代日本の生活保障システム』岩波書店、『生活の協同』日本評論社など。

立岩真也 (たていわ・しんや)

第9章「楽観してよいはずだ」を執筆。

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。著書に『私的所有論』勁草書房、『自由の平等』岩波書店、『ALS 不動の身体と息する機械』医学書院など。<http://www.arsvi.com>

中西正司 (なかにし・しょうじ) *

第10章「当事者主権の福祉戦略」を執筆。

全国自立生活センター協議会代表。20歳のときに交通事故により四肢まひになる。1986年に初めての自立生活センターであるヒューマンケア協会を設立。主な著書に『当事者主権』（上野との共著、岩波新書）がある。

2010年3月20日発行（非売品）

GCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」社会科学研究所連携拠点研究シリーズ No.2

公開シンポジウム

『ニーズ中心の福祉社会へ：当事者主権の次世代福祉戦略』
（上野千鶴子・中西正司編、2008年）を読み解く

発行所 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
TEL 03-5841-4908 FAX03-5841-4905

制作 東京大学社会科学研究所
GCOE 連携拠点

印刷所 石川特殊特急製本株式会社